

小倉一春大学院教育（国際看護）奨学金 成果公表

2022 年度

氏名	大学院名
伊藤弥生	山梨大学大学院
研究テーマ	
カンボジア農村部における飲料水の家庭内管理についての実態調査	
概要	
結果：水源は井戸と天水で、飲用までのプロセスは 7 段階だが、各家庭で様々であった。多くの水源で大腸菌が検出されたが、煮沸等の処理により大腸菌がない水が確保できた。しかし、その後の飲用・保管容器の多くで大腸菌が見られた。堀井戸の水は大腸菌汚染が無い～軽度だが、味等の理由で、直接飲料水として用いられていなかった。 考察：大腸菌を適切に除去しても、飲用時には汚染されており、飲料水による下痢症発生のリスクは高い。大腸菌が少ない堀井戸の水ではなく、多数存在する天水が飲料水として好まれており、飲料水の選択は安全性に加え、嗜好が重要な要素である。 結論：農村部で安全な飲料水を確保するために解決すべき多くの課題がある。利用者の住民と課題を共有し、方法を検討する必要がある。	

氏名	大学院名
田中陽子	国際医療福祉大学大学院
研究テーマ	
看護師が認識する外国人患者への救急看護の実践	
概要	
近年、我が国における訪日・在留外国人ともに増加傾向であり、受け入れる救急医療機関に救急患者として外国人が増えている。救急看護実践力向上に向けて教育の示唆を得るために救急看護師へ救急看護実践の内容についてインタビューした。結果は、【受入れ】、【情報収集・アセスメント】、【診療の補助】、【看護ケア】のすべてのプロセスにおいて意思伝達の問題が共通していた。意思伝達の問題において、【情報収集・アセスメント】では、緊急性や重症度を判断するための情報が取れないこと、【診療の補助】では、患者の同意が必要なケアの説明ができないこと、【看護ケア】においては安心のための言葉かけができないことに焦点化された。基礎、現任教育における看護実践に即した言語、特に英語の教育強化の必要性が示唆された。	

氏名	大学院名
吉田亜梨沙	長崎大学大学院
研究テーマ	
新型コロナウイルス大流行のウガンダの難民居住区における 5 歳未満児の予防接種率へのインパクト	
概要	
予防接種拡大計画は、子どもの健康を守るうえで最も効果的な公衆衛生活動として知られているが、ワクチンの接種率の格差は存在する。新型コロナウイルスの大流行は、保健活動に多大な影響を与え、脆弱な立場の人々の健康をより脅かした。本研究は、低所得国でありながら、世界的に多くの難民を受け入れ、先進的な難民政策を持つウガンダにて、難民居住区と受け入れ地域の子どもの対象に小児予防接種の接種率と、完全予防接種に関わる因子についてコロナ前後で比較をした。結果として、難民の子どもと、受け入れ地域の子どもの新型コロナウイルスの影響による小児予接種の接種率の変化に差はなく、新型コロナウイルス流行時もウガンダの予防接種目標値である 90%以上を保っていた。	